

理科

学年	学習状況と課題分析	具体的な改善策
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の自然の事物、現象に対する興味・関心・意欲は非常に高い。しかし知識・理解などの点を伸ばしていく必要がある。 ・基礎・基本の定着のためにも自然の事物・現象に関する実験観察を ICT を活用して理論的に学習し習得することが必要である。 ・確かな学力の構築のため、レポートを作成し、科学的な思考力を高めていきたい。 ・理科嫌いになりがちな抽象的な概念は視覚的に ICT を活用したり、効果的なプリントを使ったりする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は昨年以上に生徒が実際の生活に生かせる項目・実験を授業に取り入れていき関心・意欲を向上させる。 ・生徒の理科分野における表現力・理解力を豊かにするために、積極的にグループ討議などを実験などの授業に多く取り入れていく。 ・やり直しレポートと単元終了後の探究レポートの作成により知識を深め、科学的な思考力を身に着ける。 ・授業や課題に積極的に取り組むことができていない生徒には、適宜声掛けを行う。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・理科に対する学習意欲は高い。一方で、理科の中で数学を活用することに、抵抗のある生徒もいる。 ・実験の際には何か1つでも多くのことを見つけようと、意欲的に実験、観察に取り組む生徒が多い。 ・確かな学力の構築のため、効果的な ICT を用いて、様々な事物・現象への考察を深める必要がある。 ・今後内容が難しくなっていく中でも理科好きの生徒を育てるため、抽象的な概念について、ICT を用いて視覚的な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の課題として取り組める計算問題を活用し、理科の中で計算を行うことへの敷居を下げる。 ・探Qシートを活用し、生徒が自ら仮説や計画を考え、実行し、疑問を探求する課題解決型の実験を行うことで、科学的な根拠に基づき判断する態度や表現する力を養う。 ・教科書にある QR コードには、関連の内容や解説の動画を見ることができるので、授業内でも活用し、視覚的な理解を促す。 ・早朝学習会などを行い、個別に声掛けを行う。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・理科に対する学習意欲は、例年に比べ高い。一方で、理科の中で数学を活用することに抵抗のある生徒もいる。 ・確かな学力の構築のため、効果的な ICT を用いて、様々な事物・現象への考察を深める必要がある。 ・理科好きの生徒を育てるため、抽象的な概念について、ICT を用いて視覚的な支援を行う。 ・1・2年で学習した内容の定着が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算を行うことで受けることができる恩恵について考える時間を設け、理科の中で計算を行うことへの敷居を下げる。 ・生徒にとって誤概念を抱きやすい内容においては、効果的な ICT を用い、『わかる』という成功体験を積ませる。また、生徒の反応を見ながら繰り返し支援することで、『わかる』という経験を通して、自然科学に向き合う楽しさを体験させる。 ・授業中に、関連する1・2年の内容の振り返りを行ったり、1・2年の内容も定期考査に出題したりすることにより、復習の機会を設け、既習事項の定着を図る。 ・授業や課題に積極的に取り組むことができていない生徒には、適宜声掛けを行う。